

——浜松の十年後、二十年後はどうなっているだろうか？
ついに、AWACSがやって来た！

——警戒管制司令部もやって来る！◎浜松市では、今、二つの全く相反する町づくりが進行中である。一つは、アクトシテイに見られる文化の香り高い「音楽の町づくり」であり、もう一つは、殺人と破壊をもたらす戦争の訓練をする基地の強化であり、AWACS配備と共に、警戒管制司令部も来ることに現れた凶悪な「軍事の町づくり」である。この相反する「平和」と「戦争」が、浜松市内に同居できるのだろうか？ 市民の皆さんは、どうお考えですか？

◎五二年前の六月十八日、浜松市は米爆撃機B29の大空襲によって焼け野原となり、三千三百四十九名が無惨に死に、二千三百四十九名が重軽傷を負った。それは軍需工場と軍事基地があったために、特別にねらわれたのだ。その時、誰もが「基地はもういやだ！」と決意したはず。

◎しかし今日、再び航空自衛隊ができ、今度は最新鋭の巨大AWACSも配備され、その上、警戒管制司令部までも置かれることになった。まことに恐ろしい実践軍事都市への変貌である。万が一の場合、司令部のある浜松が真っ先に攻撃目標にされることは、軍事常識である。
何年か後に、浜松がまた焼け野原になることはないのだろうか？

◎日米安保・新ガイドラインによって、自衛隊関係は勿論のこと、民間施設までもが、米軍の起こす戦争に協力するという取り決めがなされた。
去る一月十七日、米空母艦載機F18ホーネット六機が浜松基地に「緊急着陸」して市民の度肝（どぎも）をぬいたのは、新ガイドラインの訓練であったと考えられる。その上、今後、AWACSは米軍に情報を提供する中心的役割を果たすため、その司令部が浜松に来るのだ。

◎戦争は「政治が起こす行為」である。この愚かな「米軍追従の政府の行為」にストップをかけるのは、主権者である我々国民（市民）しかない。

◎愛する我々の子や孫達に、どんな浜松を遺すのか。「平和都市」か「軍事都市」か。「平和」か「戦争」か、どちらを遺すのか？我々浜松市民は今、深刻に問われている。

一九九八年四月十二日（日）第三七四回・憲法を守る平和行進

浜松市憲法を守る会

事務局 浜松市紺屋町三〇一〇十五